

登録簿(鳥獣保護管理プランナー)

登録番号	P12001
(ふりがな) 氏名	さかにわ ひろゆき 坂庭 浩之
連絡先	名称 群馬県林業試験場
	役職
専門分野	鳥獣保護管理プランナー
専門とする鳥獣	<input checked="" type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input checked="" type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input checked="" type="checkbox"/> サル <input type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (アライグマ、ハクビシン) <input type="checkbox"/> その他 ()
主な活動地域	<input type="checkbox"/> 北海道 <input type="checkbox"/> 東北 <input checked="" type="checkbox"/> 関東 <input type="checkbox"/> 北陸 <input type="checkbox"/> 中部 <input type="checkbox"/> 近畿 <input type="checkbox"/> 中国 <input type="checkbox"/> 四国 <input type="checkbox"/> 九州 <input type="checkbox"/> 沖縄
鳥獣保護管理活動の経歴	<p>平成18年度より環境森林部自然環境課にて特定計画の策定(ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ)の実務や関連する調査を行う。</p> <p>平成20年度よりツキノワグマのヘアートラップ調査の結果から生息頭数推計等を行う。</p> <p>平成22年度、赤城山鳥獣保護区における多様性保全事業として環境省が公募する「平成22年度地域生物多様性保全活動支援事業」の企画を立案し、事業の採択を受ける。</p> <p>平成23年度、林業試験場企画・自然環境係にて、県内野生動物の生息状況等について調査に従事する。</p>

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合に、当該利用者に関し情報の提供をします。

鳥獣保護管理プランナー

坂庭 浩之

対象鳥獣
二ホンジカ

活動地域
群馬県

群馬県林業試験場

事業内容

平成27年度 赤城山麓有害鳥獣対策協議会推進会議

事業の背景

群馬県の中央部に位置する赤城山では、北部からの二ホンジカの移入・拡散により分布域の拡大と密度の増加が問題となってきた。赤城山山頂に位置する白樺牧場では100頭を超えるシカの集合が確認され、スギ、ヒノキの植栽木に加えアオダモ、ウラジロモミなど食害の発生が顕在化してきた。赤城山周辺の6市村による推進協議会が設置され対策について協議が行われた。

依頼を受けて実施した内容

鳥獣保護管理プランナーとして、赤城山で行ってきた調査結果から二ホンジカの分布域の変化、増加のスピード、捕獲による対策効果などを説明し周辺6市村が置かれている状況を再確認し、具体的な捕獲技術について解説した。

二ホンジカの増加は牧場などの良好な餌環境下では、移入と繁殖により年率2倍程度の増加があることや、1km²単位での捕獲目標を設定することで、確実な減少効果が得られること、効率的な捕獲には「鉾塩」による誘引捕獲が当該地域では有効であることを説明した。

計画的な捕獲が行われた牧場における目撃頭数（ライトセンサスによる）の減少（図1）と捕獲圧が不足する牧場での目撃頭数の増加（図2）などデータを示し、計画的な捕獲が重要であることを解説した。

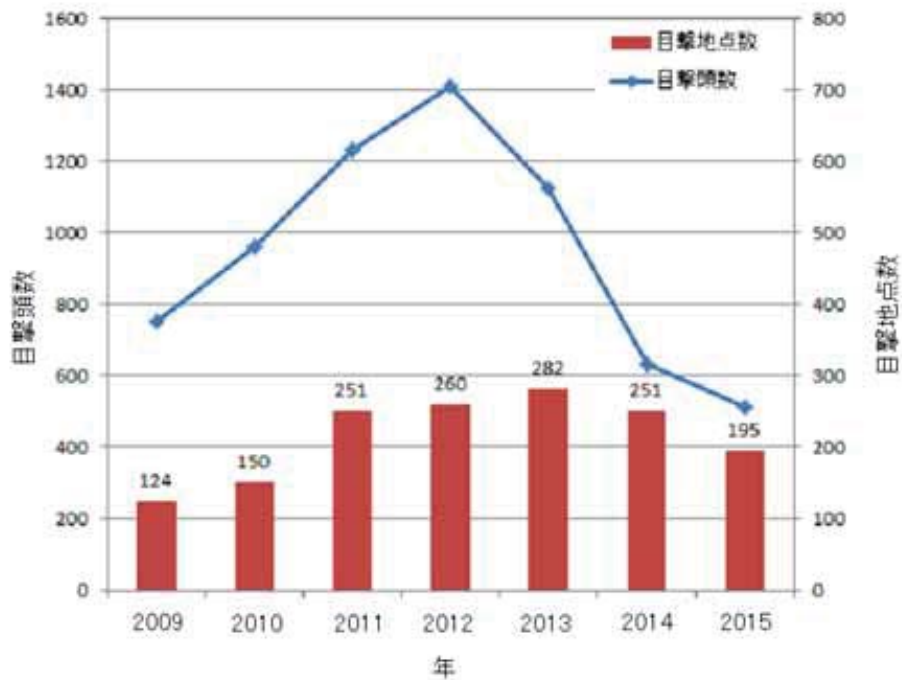


図1：計画的な捕獲が行われた牧場における目撃頭数（ライトセンサスによる）

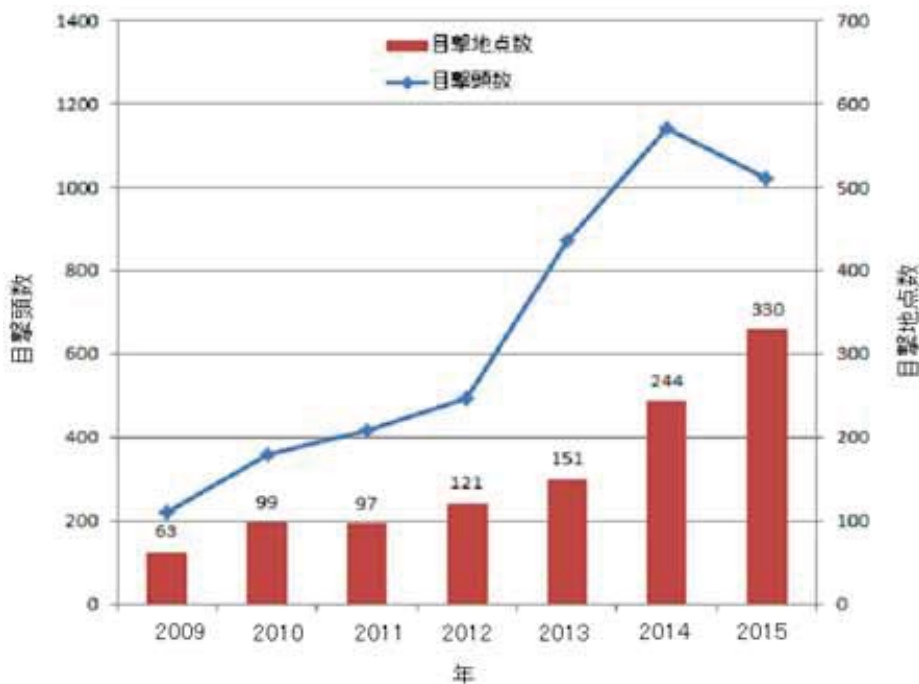


図2：捕獲圧が不足する牧場での目撃頭数（ライトセンサスによる）